

市が誇る文化財を保全

生涯学習課文化振興係 ☎(0824)731189

市教育委員会は、県の補助を受けて、県天然記念物の「上高野山の乳下がりイチヨウ」や「小奴可の要害桜」、県史跡「亀井尻窯跡」の文化財保存事業に取り組みます。

上高野山の乳下がりイチヨウ



乳下がりイチヨウ

イチヨウは長寿の木として知られますが、高野町新市の天満神社（天神さん）の境内に生育する「上高野山の乳下がりイチヨウ」は、広島県内で最大のイチヨウです。根回り周囲10・1m、胸高幹囲9・6mで、樹高は約18mあり、樹齢は千年に近いとされています。天満神社は、729年の創建ともいわれ、1325年に藪山城主の山内通資が京都の北野天満宮を勧請したと伝えられています。樹齢が千年に近いとする想定が正しければ、高野や比和口和の一部と庄原の西半分（概ね旧「恵蘇郡」の範囲）が「地毘荘」と呼ばれていた平安時代の終わりごろ、この木はすでに植えられていた可能性が高いことにもなっています。

そのイチヨウが、平成17年度の雪害や、近年の見学者の増加による「踏圧被害」によって樹勢が急速に衰えています。放置すれば枯死する恐れがあり、このたび神社の関係者が中心となって樹勢回復事業に着手しました。

小奴可の要害桜

東城町の「小奴可の要害桜」は、中世の山城跡「龜山城跡」（市史跡）の一角に生育する、根回り周囲6m、目通り幹囲5・06m、樹高約32mの、県内第2位のエドヒガンです。

龜山城跡は、「備後古城記」「西備名区」「備陽六郡志」などの書物に、奴可入道西寂の居城であったと伝えられています。旧「奴可郡」（西城、東城）のうち、東城町域は中世に「奴可東条」と呼ばれ、平氏と関わり深い荘園があったと考えられています。西寂は、『平家物語』の登場人物として知られ、1180年に源頼朝が挙兵すると、対抗する平家方に呼応して伊予



要害桜

国へ渡り、高縄山城で河野通清を討った経緯が語られています。

この桜が生育する高台も、龜山城を構成する防御施設「郭」のひとつであることから、地元の人から「要害桜」の名で親しまれてきました。

しかし、平成18年豪雨の被害により根元の土が一部崩落し、心配されています。このたび所有者と小奴可自治振興区が中心となって、法面の修復工事に取り組みことになりました。

亀井尻窯跡

国営備北丘陵公園への入口となる上原町熊野口交差点に面した丘陵は、古くから「宝塔崎」の地名が残り、江戸時代の終わりに編纂さ



亀井尻窯跡

れた「芸藩通志」にも「廃東光寺（中略）上原村にあり」と記されています。

昭和40年に廃東光寺の推定地で発掘調査が行われた際、寺院の直接的な遺構は見つかりませんでした。寺院用の瓦を焼いた奈良時代の瓦窯跡が見つかりました。窯内からは、備後北部の古代寺院で特徴的に用いられた「水切り」（逆三角状突起）のつく複弁蓮華文軒丸瓦などが出土しました。瓦窯跡は、県史跡に指定され、覆屋によって現地に保存されています。

近年、覆屋の屋根が老朽化して雨漏りがひどくなり、遺跡を将来へ保存するため、屋根を修理することとなりました。